

9. 王様の家族のように生きる

エペソ人への手紙 1 章 5 節

神は、みむねとみこころのままに、私たちがイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。

神様は私たちを愛しておられるので、私たちが神様の子どもとして受け入れて下さり、私たちに家族の一員としてのすべての権利と自由を与えてくださいました。

モーセがイスラエルの人々に、神様が彼らを選んでくださったのは人数の多さや彼らに民族固有の長所があったからではなく、神様の王としての意志と神様自ら与える愛を示すためであったと教えられました。これは私たちクリスチャンにも当てはまります。

主があなたがたを恋い慕って、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。しかし、主があなたがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、主は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手からあなたがたを贖い出された。(申命記 7 : 7-8)

エペソ 1 : 5 の「愛」は、何があっても他の人々のために神様の最善を求める愛を意味しています。つまり、自分のことよりも他人のために喜んで犠牲を払うこと、受けるよりも与えること、非難するよりも赦すこと、罪を数えることより罪から解放させることを求めることです。このような愛は神様ご自身によって現されました。神様は私たちをととも愛して下さり、私たちのためにご自分の御子のいのちを犠牲にされたのです。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネ 3 : 16) 人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。(ヨハネ 15 : 13)

偽物の神々は、恐れと無知のゆえに崇拜されますが、天の父であるまことの神様は、すべての恐れを取り除いて下さり、神様のもとに憩わせてくださいます。そして神様を「お父さん」、「パパ」と呼ぶことが出来るのです。

愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。(1ヨハネ 4 : 18) あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。(ローマ 8 : 15)

神様、私たちが神様の家族の一員として下さったことをありがとうございます。今まで味わってきたあなたの愛を思い起こし、ありがとうございます。あなたの愛を、有益で犠牲的な方法で他の人々に現すことが出来るように、わたしを用いてください。イエスの名によって、アーメン。

